

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森
Tel: 04-7132-8800
Fax: 04-7132-8806
Email: info@konbukuroike.com
URL: <http://www.konbukuroike.com>

2019年5月
第61号

主な予定

自然観察会

5月12日(日)

6月2日(日)

6月30日(日)

東葛高校来園

5月11日(土)

教師約30人

第五小学校来園

5月13日(月)

生徒約160人

酒井根東小学校来園

5月28日(火)

生徒約80人

旭東小学校来園

5月30日(木)

生徒約60人

森と泉 & 生きものたち (18)

～長い道のり ズミの花 匂い立つまで (2)～

森田 勝

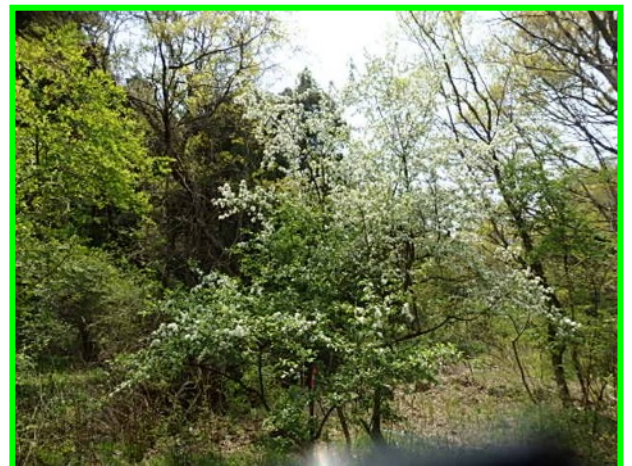
これまで、ズミの光と水の生育環境は、良いとはいえない中、昨年は酷暑と強風に伴う塩害で葉枯れ、枝枯れが目立ち、かなり衰弱しているであろう状況から芽吹き・着花を心配していましたが、ズミプロジェクトで光環境改善を主眼に湿地林内の整備に取り組んだ成果でしょうか？見事に立ち直り、真っ白な花を咲かせてくれました。

満開のズミには、吸蜜のためチョウや沢山のハチが訪れ、湿地林内のコナラの梢では、「森の歌姫」キビタキが、透き通る声で囀っていました。



葉枯れ・枝枯れ状態のズミ

(#11・12 ズミ 2018/11/10)



よみがえり見事な花を咲かせたズミ

(#11・12 ズミ 2019/4/19)



キビタキ (RDB: (A) 2016/5/5)



満開のズミに吸蜜するアゲハチョウ (#11 ズミ)

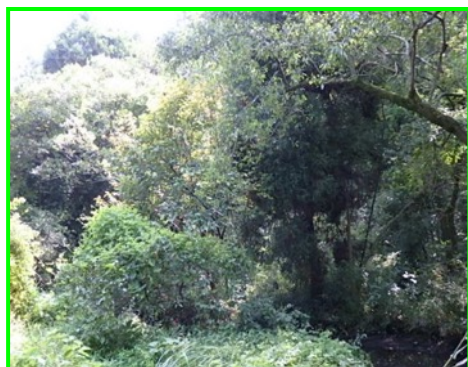
しかしながら、全個体 40 本のうち、樹冠～下枝全体に着花優良な個体は、25%に過ぎず、着花無しかほんの数輪の着花不良の個体は、約 33%もありました。ちなみに一号近隣公園のズミは、10 本中、2 本枯死、着花は僅か 1 本のみでした。

これからみてもこんぶくろ池の森のズミの生育環境は、まだまだ改善整備しなければならないところがたくさんあり、引き続き現計画に基づき、ズミの保全・再生事業を進めてまいりたいと思います。以下にズミプロジェクトの活動状況を報告します。

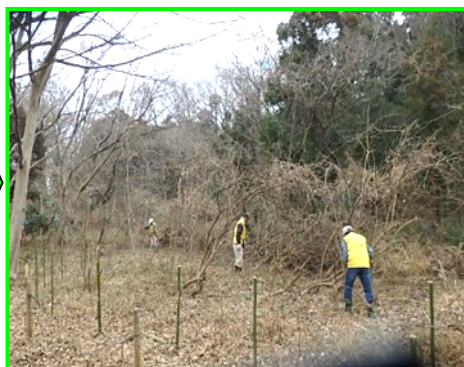
保全活動

(正直なズミ)

北岸地域で高木に光を遮られ、ツルに覆われ、近傍樹木に被られ、足元にはササに侵入され殆ど着花しなかったズミでしたが、これ等を取り除くと見事な花を咲かせてくれました。正直なズミです。汗をかき、虫やトゲに刺されながらも保全作業に奮闘した皆さんの苦労も報われます。ありがとうございました。



荒れて放置されていたズミ
(#9 ズミ 2018/9/17)



保全作業中 (2019/1/31～2/17)



見事に着花 (2019/4/24)

(荒れ放題)

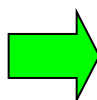
こんぶくろ池からの流れの北岸地域の作業用通路の啓開と、ズミ周りの整備は順調に進み、3月末からは南岸地域の整備に着手しました。

南岸地域は、北岸地域以上にササ、アオキの繁茂やスギやコナラ等の高木が林立して暗く、倒木・伐採木が散乱して荒れており、湿地環境や光環境の改善にはかなりの努力が必要でした。

里山会員皆さんの頑張りにより、繁茂したアオキ、ササ、スギ等の伐採・切除、倒木等の処理、流れのゴミの清掃により、光環境は少しは改善したと思います。また、湿地内の安全・効率的作業のため応急的な木橋を架設しました。



荒れ放題の流れの南岸の畔（作業前 2019/3/17）



少し明るくなった畔（作業後 2019/3/17～3/23）



伐採スギを活用して応急木橋を架設
（作業中 2019/3/23）



渡り初め（作業後 2019/3/23）

再生活動

ズミの里親皆さんの発芽状況は、順調のようです。皆さんが育てた中で最良の1株（樹高1m程）を4、5年後に持ち寄り、森に植えましょう。2月12日に播種された駒嶺会員の幼苗の生長状況です。生長が良いですね。



(2019/4/9)



(2019/4/12 (播種後2ヶ月))



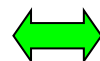
(2019/4/28)

(人工授粉)

ズミの開花に伴い、人工受粉を実施しました。これまで結実率が悪く、それは送粉昆虫の活動が思わしくないからではなかろうか・・・？ということで、初めて試みました。この際、赤ズミである一号近隣公園のズミ（Z11ズミ）も選択しました。

尚、時期としては、満開状態から1週間経た時期であったため散り終わった個体が多く有り、時期遅きに失しました。

組み合わせ：（父Z11×母#35、36、10、9）、（父#13×母#9、Z11）、（父#40×母#9、Z11）



#9ズミを母親木として他のズミの花をこすりつける要領で受粉作業を実施中
(2019/4/28)

湿地の共生・トモイキについて

ズミの保全・再生プロジェクトの全般活動方針は、計画に有りますよう「ズミが、湿地モデル地域において他の動植物と共生して自己能力で天然更新出来るための基礎となる環境を形成する。」であります。決してオンリーズミではありません！

湿地エリアには、多様で貴重な湿生植物や動物が生育し生息しています。以下の草本類やサギ・カモの他、オオタカ、カワセミ、アカゲラも訪れ、流れには絶滅危惧種のメダカも泳いでいます。ここをズミ等多くの動植物が共生する生物多様性豊かなウエットランドにすべく、計画に基づき、常に全般に亘り注意を払い、きめ細かく整備・管理して参りましょう。湿地は、水が命です。森と違い、一度失われると二度と元に戻らないと云われております。以下の福田先生のご指導を肝に銘じつつ……。



#7 ズミ近い流れのメダカ
(2019/5/2)



設置巣箱にヤマガラが！
(2019/3/20)



ズミ周りのアオキ・ササを除くと湿性草本植物が顔を出しました。

ズミ樹下のコバギボウシ
(2019/4/28)



イヌヌマトラノオ
(2019/5/2)

湿地の乾燥化について

先般、こんぶくろ池自然の森の全ズミをご覧戴いた東京大学の福田先生から、湿地の乾燥化について以下のご指導を戴きました。

(要旨)

「湿地全体に乾燥化が進み、土壌が乾いて固くなつては、湿生植物の保全が心配です。……NPOの皆さんで水位をどう維持するか問題意識を持ってご検討下さい。」

湿地は、こんぶくろ池自然の森を特色づける極めて大切なエリアで、この持続的維持のためこれまで官・学・民の皆さんで検討され多くの措置がなされてきておりますが、その衰退が危惧されております。

このような中、今の現状を踏まえ、直接湿地を管理するNPOとして以下の検討を進め、一つ一つ地道に、きめ細かく実行していくことが重要であると思料します。



踏圧をかけたり、踏み荒らさないで！

- 乾燥化の実情や貴重湿生植物の生育・分布調査・表示を実施して全員でこの問題意識を共有
- NPOの能力で実施可能な水位の維持や乾燥化対策措置の検討
- 我々の活動が湧水路を破壊したり、踏圧をかけ土壌を固くして湿地の衰退を招いたり、湿生植物を踏み荒らしたりしていないか・・・との反省にたつての活動要領・ルールの検討等

4月活動報告

14日（日） 自然観察会

藤原 俊和

お子様向けの観察会で、急に当日病気で来れなくなったご家族が2組、きままな生活の私と違い、想定以上に日常の変化も感じました。

昨年までの外部講師による観察会から、当NPO会員による観察会を企画し、初回となる自然観察会にご参加頂き有難うございました。少々詰め込み過ぎな面はありましたが、観察会終了後の集合写真撮影の表情を拝見し、楽しんで頂けたのではと感じました。保全の森に関するガイドは、親子さんが別の機会に自然と触れ合う際に、何かのきっかけとなって頂ければ幸いです。

文部科学省からの「環境を通して行う教育」に、「幼児の主体性が何より大切にされなければならない。」とあります。主体は子供達で、私たちが後押しをしてやることによって、「自然への興味・命の尊さを感じる・五感を磨く等」へ繋がる事を基本に、次の観察会を企画しておりますので、是非また違った季節に訪れて楽しんで下さい。



以下は協力してくれた他の説明員の感想文の要約です。

2家族計5人の参加者でした（お父様と3歳男児、お母様と4歳、5歳の男児）。ウサギの糞、ナナホシテントウの幼虫、秋に落ちた種子、ドングリの芽生えなど、背が低い子供目線での発見も多く、こんぶくろの自然を楽しんでもらえたのではないのでしょうか。湧水やこんぶくろの成り立ちなども解説し、保護者の方々にも面白かったと喜んで頂きました。（M.U.）

子ども主体の観察会では、自らの発見がとても大切ですが、発見のきっかけ作りや観察を深めるような指導員の補助が適度にあるといいと思います。説明に偏りすぎず、本物を子ども達自身の五感を使って感じる手助けができたと思います。（M.K.）

小2の女の子とお母様をご案内しました。女の子は、カントウタンポポとセイヨウタンポポの違いに興味を持ってくれて、見つけるタンポポを楽しそうにチェックして歩きました。ウグイスの声を聞き、ゴマギの若葉を香り、スマレの葉の手触りを調べ、一緒に春を肌で感じる事ができました。（S.T.）



管理棟前で、ノウサギの糞をじっくり観察

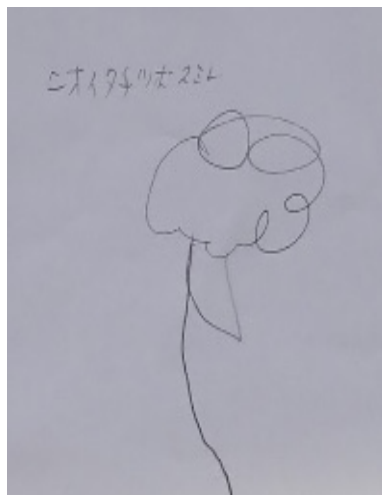


湧水からの流れ、何があるかな？

こんぶくろ池前で野鳥の羽が散乱。森の頂点にたつ猛禽類の存在を感じられたのでは・・・



オオミズアオの翅を見つけて



ニオイタチツボスマレ



日本タンポポ（関東タンポポ）と西洋タンポポ

こんぶくろ池公園周辺で見られる植物の標本作成

大貫 遵子・山下 紀子

植物採集を2006年から開始している。

植物分類学において種の比較を詳細に行う際に、近縁の種類の標本を同時に、また花のない季節に花を、果実のない季節に果実を見ることが出来る植物標本はなくてはならないものである。一般的に、ある地域の植物の記録を後世に残すという意味でも植物標本は貴重な資料となる。

主に次の文献をもとにして同定と分類を行った。

千葉県自然誌 別編4 千葉県植物誌 県史シリーズ51 (平成15年3月25日千葉県資料研究財団編集)

【シダ植物】

科	種数
イノモトソウ科	2
イワデンダ科	1
ウラボシ科	1
オシダ科	29
ゼンマイ科	1
トクサ科	1
ハナヤスリ科	2
ヒカゲノカズラ科	1
フサシダ科	1

【種子植物 裸子植物】

科	種数
スギ科	1
ヒノキ科	2
マキ科	1
マツ科	1

標本作成数 標本作成数 計432種
(2019年3月31日現在)

【種子植物 被子植物】

科	種数	科	種数	科	種数	科	種数
アオイ科	2	スマレ科	5	ミズキ科	5	ハエドクソウ科	1
アカザ科	2	セリ科	6	ミツバウツギ科	1	ヒルガオ科	2
アカバナ科	4	センダン科	1	メギ科	2	ムラサキ科	1
アケビ科	2	センリョウ科	2	モクレン科	1	モクセイ科	5
アサ科	1	タコノアシ科	1	モチノキ科	2	ヤブコウジ科	3
アジサイ科	3	タデ科	14	ヤナギ科	3	リンドウ科	1
アブラナ科	5	ツツラフジ科	1	ヤブケマン科	2		
アリノトウグサ科	1	ツバキ科	3	ヤマゴボウ科	1		
イラクサ科	2	ツリフネソウ科	1	ユキノシタ科	1		
ウコギ科	6	トウダイグサ科	6	ユズリハ科	1	アヤメ科	3
ウリ科	3	ドクダミ科	1	アカネ科	5	イグサ科	4
ウルシ科	1	ナデシコ科	6	エゴノキ科	1	イネ科	35
オトギリソウ科	2	ニガキ科	1	オオバコ科	2	ガンマ科	1
カエデ科	1	ニシキギ科	4	オミナエシ科	1	カヤツリグサ科	19
カタバミ科	3	ニレ科	2	ガガイモ科	2	キツネノマゴ科	1
カバノキ科	4	バラ科	20	キキョウ科	1	サトイモ科	4
キブシ科	1	ビャクダン科	1	キク科	43	サルトリイバラ科	2
キンポウゲ科	2	ヒユ科	2	クマツヅラ科	4	シヨウガ科	1
クスノキ科	2	フウロソウ科	2	ゴマノハグサ科	7	シヨウブ科	1
グミ科	2	ブドウ科	4	サクラソウ科	4	ツユクサ科	2
クロウメモドキ科	3	ブナ科	4	シソ科	10	ヒガンバナ科	2
クワ科	4	ベンケイソウ科	1	スイカズラ科	6	ヤマノイモ科	2
ケシ科	3	マメ科	18	ナス科	3	ユリ科	11
スベリヒユ科	1	ミカン科	2	ハイノキ科	1	ラン科	10

5月理事会

2019年5月4日（土）10:00～13:00

出席理事：岡本、萩原、上田、北田、中川、藤原

会計：山上

1. 審議検討事項

（1）対外窓口担当

- ① 東京大学、千葉大学：萩原（CC：藤原）

久保田先生は上田

調査の際は腕章等着用を依頼

- ② 柏市：中川

- ③ その他：その都度会長が事案に応じて決める

（2）イベントの実施

- ① 手賀沼流域フォーラム及び柏の葉まるごとキャンパス

- ・ きのご観察会実施、スタンプラリーは実施の方向（詳細別途検討）、コンサートは実施しない

- ② NPO 法人設立 10 周年行事については別途検討する

（3）湿地の乾燥化に対する措置（福田先生からの提言への対応）

- ① 水位の保持

- ・ 管理当番がこんぶくろ池、弁天池の水位測定を行う
- ・ 北部湿地の流れ及び弁天池からの流れの適当な場所に倒木等で数カ所ダムを作り、大雨時などにオーバーフローさせることで周辺の湿地環境を維持する（位置、方法等は現場で確認）

- ② 踏圧防止

- ・ 調査班が希少湿性植物等の生育・分布等の調査を実施
- ・ 上記調査に基づき、あらためて歩道の位置を確認し整備（必要があれば木道を設置）

2. その他

- （1）みどりの基金に今年度のチェーンソー講習会について確認

- （2）中央の通路は動植物の生育等に悪影響がなければ、次回作業日に閉鎖解除する

- （3）次回合同活動日に、里山班と調査班でワタラセツリフネの新芽を確認する

編集後記

平成最後の日曜日となった4月28日、こんぶくろ池公園のガレージでNPOの通常総会が開催されました。10連休が始まったばかりで天気にも恵まれ、少し汗ばむくらいでしたが、33名の会員が出席（プラス委任状13名）してくださいました。

この総会をもって、10年前のNPO発足時からこんぶくろ池の活動に携わってこられた、石渡さん、市川清さんが理事を退任されることとなりました。長い間本当にありがとうございました。代わって、岡本新会長のもと、新しく北田さん、中川望さん、藤原さんが理事に就任し、山上さんも会計担当として会を支えてくれることとなりました。「100年の森」ではまだまだ序盤ですが、会員みんなで次の10年の歴史を作っていきたいと思います。

最近では2つのホテルと自動車学校も営業を休止し、元々計画されていた道路等の開発も今後進んでいくため、急速に公園周りの環境が変化していくことと思います。そのような大事な時にNPOもしっかりとした組織体制で、引き続き産官学民で協力して対応していくことが求められます。今回新たに事業担当制も新たに新設しましたが、無理のない範囲で、少しずつ新しい試みにも取り組んでいきたいと思えます。会員の皆さんからもいろんなアイデアをお待ちしておりますので、どんどん理事や事業担当にぶつけてもらえればと思います。よろしくお願ひします。（萩原秀夫）